

2021 年 5 月 26 日

2020 年度 事業報告及び決算報告書
(2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日)

- I 法人の概要
- II 事業の概要
- III 決算及び財務の概要
- IV 別冊資料
 - 1 計算書類
 - 2 参考資料
 - 1) 事業活動収支推移（法人全体）
 - 2) 事業活動収支推移（部門別）

学校法人国立音楽大学

目 次

I 法人の概要

- 1 基本情報（設置学校、キャンパスの所在地）
- 2 建学の精神
- 3 沿革
- 4 設置する学校・学部・学科等
- 5 設置学校の入学定員・学生数の状況
- 6 設置学校の収容定員充足率
- 7 役員の概要
- 8 評議員の概要
- 9 教職員の概要

II 事業概要

- 1 教育研究事業
 - 大学、大学院
 - 附属中学校・高校
 - 附属小学校
 - 附属幼稚園
- 2 施設の整備

III 決算及び財務の概要

- 1 決算の概要
- 2 その他
- 3 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

IV 別冊資料

- 1 計算書類
- 2 参考資料
 - 1) 事業活動収支推移（法人全体）
 - 2) 事業活動収支推移（部門別）

I 法人の概要

1 基本情報（設置学校、キャンパスの所在地）

国立音楽大学

190-8520 東京都立川市柏町5-5-1 TEL)042-536-0321

HP) <https://www.kunitachi.ac.jp/>

国立音楽大学附属中学校／高等学校普通科・音楽科

186-0005 東京都国立市西2-12-19 TEL)042-572-4111 Fax)042-573-7962

HP) <http://www.kunion.ed.jp/>

国立音楽大学附属小学校

186-0005 東京都国立市西1-15-12 TEL)042-572-3531 Fax)042-576-5730

HP) <http://www.onsho.ed.jp/>

国立音楽大学附属幼稚園

186-0004 東京都国立市中1-8-25 TEL)042-572-3533 Fax)042-573-9977

HP) <http://k-onyo.sakura.ne.jp/>

2 建学の精神

自由、自主、自律の精神を以て良識ある音楽家、教育家を育成し、日本及び世界の文化の発展に寄与する。

3 沿革

大正15年 4月 本学の前身、東京高等音楽学院創立（仮校舎を東京市四谷区番衆町に置く）
予科、本科（声楽・器楽・作曲）、高等師範科、師範科、研究科、選科を置く

11月 国立大学町(昭和27年・1952、文教地区に指定される)に校舎が竣工し移転

昭和16年 8月 中等学校音楽科教員無試験検定を認可

昭和22年 7月 国立音楽学校と校名変更認可

昭和23年 5月 財団法人国立音楽学校となる

昭和24年 4月 国立音楽高等学校・国立中学校設置

昭和25年 4月 国立音楽大学設置、従来の声楽・器楽・作曲の他に楽理学科・教育音楽学科を新設

7月 国立幼稚園設置

9月 楽器研究所設置

昭和26年 2月 学校法人国立音楽大学に組織変更認可

	4月	別科(作曲・声楽・器楽・調律・リズム)設置
昭和27年	7月	附設保育科設置(幼稚園教諭養成機関として認可・1年制)
昭和28年	4月	国立音楽大学附属小学校設置
昭和30年	4月	大学に2部(夜間部)を設置
昭和31年	4月	専攻科(作曲・器楽・声楽・楽理・教育音楽)設置 附設保育科を改組し幼稚園教諭養成所(幼稚園教諭養成機関として認可・2年制)とする
昭和35年	2月	幼稚園教諭養成所が各種学校として認可
昭和37年	4月	別科は調律専修を除き学生募集停止
昭和38年	4月	教育音楽学科に幼児教育専攻を設置 国立音楽高等学校に普通科を設置
昭和41年	4月	大学上水台校舎(立川市柏町)で授業開始
昭和42年	4月	附属小学校新校舎へ移転
昭和43年	4月	大学院音楽研究科(修士課程)を設置、専攻科は学生募集停止
昭和44年	3月	専攻科廃止
昭和50年	4月	法人本部を国立市から立川市に移す 附属の各校(園)名を変更し統一する 国立音楽大学附属音楽高等学校、国立音楽大学附属小学校 国立音楽大学附属中学校、国立音楽大学附属幼稚園
昭和51年	4月	音楽研究所、楽器技術センターを設置
昭和53年	4月	大学位置変更(国立市から立川市へ) 附属音楽高等学校・中学校位置変更(国立市西)
昭和54年	6月	大学2部(夜間部)廃止
昭和63年	4月	楽器学資料館設置
平成 2年	4月	学科名一部変更、楽理学科を音楽学学科、教育音楽学科から音楽教育学科とする
平成 3年	4月	大学音楽デザイン学科・応用演奏学科開設
平成16年	4月	大学学科再編(演奏学科・音楽文化デザイン学科・音楽教育学科の3学科体制)、収容定員減並びにカリキュラム改編 附属音楽高等学校を国立音楽大学附属高等学校と校名改称
平成19年	4月	大学院音楽研究科音楽研究専攻(博士後期課程)設置
平成23年	4月	大学の演奏学科にジャズ専修を新設
平成26年	4月	大学学科再編(演奏・創作、音楽文化教育の2学科体制)、収容定員減並びにカリキュラム改編 附属中学校・高等学校を併設型中高一貫校へ変更
平成30年	4月	別科調律専修学生募集停止

4 設置する学校・学部・学科等

国立音楽大学

音楽学部 演奏・創作学科、音楽文化教育学科

音楽研究科（修士課程）声楽専攻、器楽専攻、作曲専攻、音楽学専攻、音楽教育学専攻

音楽研究科（博士後期課程）音楽研究専攻

国立音楽大学附属高等学校

音楽科、普通科

国立音楽大学附属中学校

国立音楽大学附属小学校

国立音楽大学附属幼稚園

5 設置学校の入学定員・学生数の状況

<学部>

(2020年5月1日現在)

学部	学科	入学定員	入学者数	収容定員	現員数
音楽学部	演奏・創作学科	300	283	1200	1101
	音楽文化教育学科	100	66	400	228
合計		400	349	1600	1329

(人)

<大学院（修士課程）>

(2020年5月1日現在)

研究科	専攻	入学定員	入学者数	収容定員	現員数
音楽研究科	作曲専攻	4	3	8	9
	声楽専攻	8	13	16	27
	器楽専攻	16	18	32	36
	音楽学専攻	4	1	8	3
	音楽教育学専攻	4	3	8	5
合計		36	38	72	80

(人)

<大学院（博士後期課程）>

(2020年5月1日現在)

研究科	専攻	入学定員	入学者数	収容定員	現員数
音楽研究科	音楽研究専攻	5	6	15	22

(人)

＜附属学校＞

(2020年5月1日現在)

学校名	学科	入学定員	入学者数	収容定員	現員数
高等学校	音楽科	105	95	315	273
	普通科	70	64	210	187
中学校		70	55	210	180
小学校		80	52	480	293
幼稚園		48	27	144	92

(人)

6 設置学校の収容定員充足率

(毎年度5月1日現在)

学校名	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
大学	95%	93%	88%	83%	83%
高等学校	72%	80%	83%	88%	88%
中学校	80%	100%	99%	93%	86%
小学校	64%	62%	59%	59%	61%
幼稚園	61%	58%	63%	61%	64%

7 役員の概要

理事の定員数5～8名

	職務	氏名	常勤・ 非常勤	現職	就任年月日
理事	理事長	山田晴彦	常勤		H31.4.1
理事	学長	武田忠善	常勤	国立音楽大学 音楽学部特任教授	H23.4.1
理事	経営戦略 担当	杉浦正和	非常勤	早稲田大学 大学院教授	H31.4.1
理事	総務・財務 担当	重盛次正	常勤		H31.4.1
理事		花岡千春	非常勤	国立音楽大学 音楽学部特任教授	H23.4.1
理事	経営企画・ 広報担当	杉江知都子	常勤	国立音楽大学 総合企画部長	H31.4.1
理事	附属担当	古川 聡	常勤	国立音楽大学 音楽学部教授	H27.4.1

理事		永峰高志	常勤	国立音楽大学 音楽学部教授	H31.4.1
監事		遠藤正敏	非常勤		H31.4.1
監事		後藤 修	非常勤	ホシザキ㈱執行役員 チーフ・リーガル・オフィサー	H31.4.1

8 評議員の概要

定員数15～27名

氏名	現職	就任年月日
永峰高志	国立音楽大学音楽学部教授・理事	H31.4.1
古川 聡	国立音楽大学音楽学部教授・理事	H27.4.1
今村央子	国立音楽大学音楽学部教授	H31.4.1
三木香代	国立音楽大学音楽学部教授	H31.4.1
杉江知都子	国立音楽大学総合企画部長	H19.4.1
正木麻里子	国立音楽大学演奏部長	H27.4.1
石堂 浩	国立音楽大学総務・財務部長	H31.4.1
柄田明美	国立音楽大学図書館事務室主任司書	H31.4.1
五十嵐 稔	国立音楽大学附属中・高教諭	H31.4.1
秋場健志	国立音楽大学附属中・高教諭	H27.4.1
家城直子	国立音楽大学附属小学校教諭	H31.4.1

木村奈々	国立音楽大学附属幼稚園教諭	H31.4.1
三戸 誠	国立音楽大学音楽学部非常勤講師	H31.4.1
渋谷淑子	国立音楽大学音楽学部特任教授	H27.4.1
三浦三枝子	有限会社ワンダーワールド代表取締役	H27.4.1
小川哲生	国立音楽大学同調会幹事代表	H31.4.1
太宰信也	国立音楽大学音楽学部非常勤講師 下志津病院こじか保育園園長	H31.4.1
中村暢	公益財団法人音楽文化創造研究室室長	H31.4.1
木村 元	(株) アルテスパブリッシング代表取締役	H27.4.1
新海紀代美	(株) 立川都市センター監査役	H27.4.1
白柳龍一	GVIDO MUSIC (株) 常務執行役員	H31.4.1
中西穂高	帝京大学産学連携推進センター教授・ センター長	H31.4.1
中野哲夫	(株) 東急文化村代表取締役社長	H31.4.1
石間 裕	有限会社石間企画事務所代表取締役	H31.4.1

9 教職員の概要

	学校	本務者数	兼務者数	平均年齢
教員	大学	75	312	51.1
	高等学校	27	67	45.9
	中学校	11	15	39.7
	小学校	24	18	43.9
	幼稚園	5	4	34.3
合計		142	416	48.9
職員	大学	70	160	35.0
	高等学校	7	8	35.4
	中学校	1	1	51.0
	小学校	2	4	43.2
	幼稚園	0	2	50.0
合計		80	175	35.5

Ⅱ. 事業の概要

2020 年度に行われた学校法人及び設置学校における事業の概要は、以下の通りです。

【重点施策の推進及び新型コロナウイルス感染症対策】

2019 年度に、より時代の要請に応じるべく「中期経営計画（2018 年度～2020 年度）」を更に発展させ、当初計画していなかった事業も加え、5 つの重点項目（1.教育改革、2.学生支援、3.学生募集、4.入試制度改革、5.社会貢献・地域連携）を推進してきました。

2020 年度は、これまでの重点項目を更に具体化し、新たに「本学の目指すべきビジョン（これここ 100 年ビジョン）」（2020 年度から 2023 年度中期計画）を策定し、学内 LAN や「教員ガイド」等でそれらを明示することで教職員への周知も行い、全学的な取り組みとして実行していく体制を強化しました。2020 年度の事業を進めるにあたって、学内 LAN では下記の通り、進捗状況も掲載し、全学的な情報及び意識の共有を行いました。

4 月・「くにおんのビジョン及び中期方針」学内 LAN 掲載

9 月・「くにおんのビジョン及び中期方針」の中間レビュー報告

「本学の目指すべきビジョン（これここ 100 年ビジョン）」は、下記の通りです。このビジョンは、本学の教育理念である「自由、自主、自律の精神を以て良識ある音楽家、教育家を育成し、日本及び世界の文化の発展に寄与する」を実現するものです。

2020 年度の事業計画ではこのビジョンを大学として掲げていましたが、附属校との連携強化を推進していく中で、法人全体の中核的なビジョンと位置付けし直しました。

本学の目指すべきビジョン（これここ 100 年ビジョン）

—くにおんの 5 つの柱—

『伝統と挑戦』

伝統的な音楽教育を基盤に、新たな世界に挑戦し、世界を代表する音楽教育機関に。

『音楽文化人』

新たな価値のイノベーターとして、音楽文化の進化発展をリードし、社会に貢献。

『個の尊重とアンサンブル』

個の尊重と協創の教育文化。

『一貫教育』

音楽を中心とした一貫教育を通じた、精神性豊かな人間形成。

『教育環境』

学びを徹底支援する教育環境。

また、2020 年度は「新型コロナウイルス感染症」の年でもありました。日本のみならず世界中の大学が、コロナウイルス感染症が拡大していく中で、学生の学びをどのように維持していくか様々な対応を迫られる中、迅速な意思決定が必要とされました。このような歴史的にも異例な年度にあって、本学が確かな実行力をもって生徒・学生の教育環境をい

かに維持し、支援してきたかをここで記載することは大変重要です。下記に、その主な実施項目を挙げました。

① 教育の場の安全の確保と感染拡大防止

2020年2月の政府による新型コロナウイルス感染性の発表後すぐに、附属校を含む本学の学生、教職員の安全を第一に、感染の拡大防止への取組を始めました。3月には「新型コロナウイルスの対応について」とし、この感染症の特徴や日常における防止策等、HP等を活用し、周知しました。

また、学生、教職員の安全を第一に構内への立ち入り禁止を行い、オンライン授業を開始、さらに事態の長期化に備え、学生、教職員の安全を確保しつつ、教育活動を維持確保するための対応を行いました。具体的には、入構時の機械による体温測定の徹底、窓口の飛沫防止シートの設置、アルコール消毒液の設置、レッスン用パーティションの導入等、本学でできることは全て実施していきました。加えて、文部科学省周知指示等を踏まえながら、手洗い励行、マスク着用などによる衛生管理や感染リスクの徹底回避、ソーシャルディスタンスの実施等必要な措置を徹底しました。

② 緊急支援奨学金等の学生支援

新型コロナウイルス感染症の影響により企業の経済活動や家計に深刻な影響が出てきたことから、本学では附属校を含む全ての学生の学修活動を支援するため経済的措置を実施しました。

- (1)緊急支援奨学金の給付（インターネット環境整備、通信関連費用、学外練習施設利用費、緊急事態対応生活関連諸費用等）

対象：大学生・大学院生、給付金支援：一律10万円 ※附属校別途設定

- (2)前期学費納付の延納（8月末日まで延長）

- (3)家計急変等により学修継続が困難な場合に無利子での貸与奨学金制度等

その他にも、国による「学生支援緊急給付金」や日本学生支援機構奨学金について、HP等で随時情報を提供しました。

また新学期だったこともあり、それぞれの学生が教科書を購入する必要がありました。新学期時は、緊急事態宣言下で入構禁止となっていたため、学生が教科書をネットで購入できるようにし、その一部送料は大学が負担、図書館資料の貸し出しについては、全ての送料を大学が負担する措置を講じました。

③ オンライン授業及び授業の再開

4月初めに学校閉鎖が長引く可能性が高まったことにより、遠隔授業の導入を検討するため事前に、全教員と学生にアンケートを実施しました。その結果、ネット環境が十分でない、帰省先で音が出せない、対応できる時間が限られている等のケースが教員にも学生にも一定数いることがわかりました。

そこで、4月21日に「オンライン授業の方向性とスケジュール」を定め、

- ・学生にも教員にも負担をかけない。
- ・条件の厳しいものに配慮する。
- ・全員が納得したやり方で実施する。
- ・不公平感を生まない。

という基本方針に従い、5月11日からオンライン授業を実施しました。

6月8日からは他音楽大学に先駆けて、専攻のレッスンのみ対面式授業を開始し、その後段階を経て小アンサンブルや実習系の授業も通常の形態に戻っていきました。

④ 附属各校の対応

附属各校においては、園児、児童、生徒の学齢に応じた「学び」を止めることがないよう、4月より教材の郵送による添削指導、動画配信、Webを活用したホームルームや面談、レッスン、Web上での作品掲載等、多様な方法で園児、児童、生徒、保護者との繋がりを維持するよう努めました。

5月中旬には「学び」を支援する支援金を各家庭に給付し、6月からは各校再開にあたって、登園・登校時間の分散、保育や学習時間の短縮、園児・児童・生徒の人数等に配慮した通常保育、通常授業に徐々に戻っていきました。

こうした厳しい状況の中、2020年度に策定された「本学の目指すべきビジョン（これこれ100年ビジョン）」“くにおんの5つの柱”を重点項目として、以下事業を行いました。事業の中には、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった事業、あるいは延期となった事業もありました。しかしその一方で、学内ICT環境の飛躍的な整備、新たな教育スタイル（リアルとオンラインのハイブリッド教育、デジタル関連科目設置等）・デジタルを活用した学生募集施策や広報施策の提案や検討といったポジティブな側面も多くありました。

デジタルの活用については、終わりの見えない新型コロナウイルス感染症や国が進めるDX政策等を考え合わせると、大学だけでなく全ての教育機関にとって今後更にその環境整備や教育方法の変革等を進めていく必要があると思われます。2020年度は、こうした新しい局面を見据えて時々刻々と変化する社会環境に対応しながら試行錯誤しながら事業を実施していった年度となりました。

その他特記事項としては下記の通りです。

4月・2023年の大学認証評価受審を控え、自己点検・評価委員を任命

5月・文部科学省へ大学の収容定員変更に係る届出書を提出

11月・大学と公益財団法人青梅佐藤財団が包括連携協定を締結

1. 教育研究事業

大学、大学院

2020 年度の事業計画として、「本学の目指すべきビジョン（これここ 100 年ビジョン）」“くにおんの 5 つの柱”のもと、大学の 3 つの重点施策、①「魅力ある学園に向けた改革施策の推進」、②「積極的な広報活動による情報発信とブランド力の強化」、③「財政基盤の安定化」を掲げました。それを達成するため 11 の基本計画（下記）に沿って 2020 年度に行った事業は次の通りです。

- 1) 大学の教育研究活動
- 2) 演奏芸術の振興
- 3) 社会貢献・地域連携
- 4) 「くにおんアカデミー」の開設
- 5) グローバル教育センターの設置
- 6) 管理・運営
- 7) 施設環境整備
- 8) ICT 環境整備
- 9) 新たな財源の確保
- 10) 広報活動
- 11) 学校間連携

1) 大学の教育研究活動

《教育プログラム改革》

①カリキュラムの見直し

全学的なカリキュラムの見直しを実施しました。検討にあたっては、大学の現状に合わせた科目数・配置（カリキュラムのスリム化）、学生の基礎学力低下への対応、社会変化の反映を観点に、2022 年度入学生から適用する教養科目の見直しを行いました。

②クォーター制導入について

音楽基礎科目（現在、レベル別、習熟度別編成）や実技など、クォーター制に適応し難い科目を考慮すると具体的導入方法の検討までには至りませんでした。しかし、クォーター制の導入については、「私立大学等改革総合支援事業」（補助金）において経年に渡り評価項目とされている点でも、音楽大学ならではの導入方法がないか、継続して検討していくものとなりました。

③コロナ禍の対応による新たな学びの形

先の【重点施策の推進及び新型コロナウイルス感染症対策】の中で記述しましたが、

新型コロナウイルス感染症の影響により、4月から実技レッスンも含めたオンライン授業を開始しました。当初は教職員も学生も、オンライン授業という突然の導入に戸惑うこともありましたが、2020年度を通じ実際に運用していく中で、オンライン授業の問題点と同時に利点もわかるようになってきました。そうした実績を踏まえて、新たな学びの形として併用していくことにしました。2020年度は、リアルとオンラインを併用した教育活動を維持する基盤を作ることができました。

④「ディプロマ・サプリメント」の導入

2019年度の検討で2020年度からの実施としていた「ディプロマ・サプリメント」を導入し、2020年度卒業生全員に配布を行いました。今後も継続するとともに、2016年度以降の卒業生についても、申請により発行ができるように整備しました。これは、既存のLive Campus機能を拡張することで実現され、大学教育の質保証として「学修成果の可視化」を更に強化するツールとなりました。

⑤ミュージカル・コースの充実

本学を志望する生徒からここ数年訴求力が高まっているミュージカル・コースについて、更に魅力的なアピールとして打ち出すため、2020年度に内容の充実を図りました。具体的には、非常勤教員を専任教員に引き上げたほか、客員教員を増やし、新たなミュージカル・コース用練習室を整備、科目を増やす施策を行いました。

《学生支援の強化》

①卒業生アンケートを活用したキャリア教育の強化

2020年度は、これまで実施してきた卒業生のキャリアに関する状況調査に加え、卒業生の就職先等へのアンケートを実施し、その結果をHPで公表しました。これを第1歩とし、今後、音楽大学卒業生の様々なキャリアの形を示し、進路の参考になるようより良い活用の仕方を検討し、キャリア教育の強化に繋げていく予定です。

②卒業生の活躍やライフスタイルの発信

2020年度は、新型コロナウイルスの影響により例年と異なる業務も多く、上記①の卒業生の就職先等へのアンケートの実施に留まりました。2021年度の継続課題として取り組む予定です。

③奨学金制度の見直し・充実化

先の【重点施策の推進及び新型コロナウイルス感染症対策】の「② 緊急支援奨学金等の学生支援」で記述したように、経済的支援を必要とする学生に、緊急支援奨学金の給付や前期学費納付の延納、無利子での貸与奨学金制度等を実施しました。

現行の奨学金制度の見直し・充実化は継続課題として2021年度に取り組む予定としま

した。

④学生用施設予約システムの導入

現状窓口で予約受付を行っている施設予約について、学生がスマートフォン等を利用し、自宅や外出先等からも簡単にアクセス・予約できるよう利便性を図るため、2020年度に学生専用の施設予約システムの導入を検討しました。このシステムは2021年4月から稼働させます。

⑤学生寮の欠食制度の見直し

これまで学生寮において欠食が認められるのは、教育実習や大学主催演奏会等への参加の場合に限られていました。しかし、これら以外で欠食した場合でも食費を支払わなければならないことに学生から不満の声があったため、2020年度に、欠食を認める範囲の見直しをする予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により継続検討としました。

ただ2020年度は、コロナ対応として在寮しない場合には欠食を認める措置を行いました。

⑥学生支援課実施事業一覧（定例事業）

※「中止」は、新型コロナウイルス感染症の影響によるものです。

実施日	場所	名称	内容
5月25日（月）		日本赤十字社による献血	「中止」
6月15日（月） ～7月8日（水）	新1号館	七夕祭 2020「コロナに負けるな！国立音楽大学七夕祭2020」	「中止」
11月24日（火）	動画公開	音楽文化教育学科生による「MUSIC スペース」	クリスマスツリー点灯式動画公開
12月26日（土）・27日（日）	Online	国立音大学芸術祭 2020「おうち芸祭～音楽でつながろう～」	オンライン開催（38団体の参加）



《入試制度改革》

①学部入試の多様化

インターネット出願・合否・入学手続きシステムを導入し、2021年度入試から全日程で運用を開始しています。インターネット出願システム導入にあたっては、実務的な運用をシミュレーションしながらシステム業者にその構築を依頼したことで、スムーズな移行ができました。また、web上で一連の出願手続きが可能となったことにより、事務作業が効率化されると同時にこれまで出願書類等印刷物に係っていた費用の削減にも繋がりました。

更に2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、受験生の安心・安全を確保するため、急遽オンライン方式による入試を実施しました。実施方法については、対面方式との公平性を確保する形態を入試委員会で検討し、それを確実に履行することで、オンライン方式による受験審査においても学力・技術を図るに足る成果を得ることができました。オンライン方式は、こうした非常時の状況だけでなく、遠隔地の受験者にとってアクセスしやすい環境を提供することから、今後も改善を図りながら必要に応じて継続していく方針です。

②大学院

2020年度は、これまでの入試内容を見直し内部進学者の増員を目指しました。他音楽大学院との入学者数比較等分析を行った結果、本学は他音楽大学に比べて大学院（修士課程）入学者をかなり絞り込んでいることがわかりました。新たな視点で見直しを図った結果、18歳人口の減少、基礎学力の低下など社会的状況を踏まえ、学部～大学院の6年間でプロフェッショナルに育成する、更なる研鑽を強く希望し潜在的な能力を持つ学生をこれまでよりも幅広く受け入れる、という考え方に転換し、これまで40名弱だった入学者を63名にまで増員することができました。

《研究活動改革》

①教員業績管理システムの構築

2020年度は、教員の総合的業績評価としての活用及び広報活動の重要なコンテンツとして、本学HPと連動した教員紹介ページを充実させることを目的に、「研究業績プロ」を導入しました。これは、専任教員が自身で自らの業績を入力できるシステムで、HPの教員紹介ページとリンクさせたものです。本学教員の専門分野、演奏活動、研究業績等詳細な情報を発信できるようにしたことで、本学の魅力を発信するツールとしました。また、学内的にはこうした情報を教員の業績評価の1つの指標として活用していきます。


国立音楽大学
KUNITACHI COLLEGE OF MUSIC

教員情報

教員情報TOPページ

検索

氏名

キーワード

検索

氏名とキーワードで教員情報を検索します。

専門分野

[ライフサイエンス](#)
[情報通信](#)
[人文・社会](#)
[その他](#)

国立音楽大学

演奏・創作学科

[声楽専修](#)
[鍵盤楽器専修](#)
[弦管打楽器専修](#)
[ジャズ専修](#)
[作曲専修](#)
[コンピュータ音楽専修](#)

音楽文化教育学科

[音楽教育専修](#)
[音楽療法専修](#)
[音楽情報専修](#)
[幼児音楽教育専攻](#)

外国語科目

[外国語科目](#)

教職科目

[教職科目](#)

国立音楽大学大学院

音楽研究科

[声楽専攻](#)
[器楽専攻](#)
[作曲専攻](#)
[音楽学専攻](#)
[音楽教育学専攻](#)
[音楽研究専攻 声楽研究領域](#)
[音楽研究専攻 器楽研究領域](#)
[音楽研究専攻 創作研究領域](#)
[音楽研究専攻 音楽学研究領域](#)
[音楽研究専攻 音楽教育学研究領域](#)

②科学研究費について

2020 年度までの日本における大学の科研費の通算獲得件数について、東京都にある私立の音楽大学を抽出すると、昭和音楽大学 32 件、国立音楽大学 26 件、武蔵野音楽大学 25 件、東京音楽大学 25 件で、音楽大学の中ではある程度獲得件数を保持しています。

2020 年度に更なる活性化を図る特別な施策を実施することはありませんでしたが、「研究業績プロ」の導入によって教員の研究領域や分野、活動範囲が明確になったことから、これらデータを有効活用し、より多くの科学研究費が獲得できるような施策立案に向け検討を行う予定です。

③図書館の資源活用

2020 年度は、追加寄贈資料のおおよその整理に目途がついた竹内文庫をデジタル化するため、立命館大学に送付を行いました。また、90 周年の図録に掲載された錦絵をオンライン上で紹介するページを作成し、その正本の一部を公開しました。

ベートーヴェンの貴重楽譜コレクションについては、RA の協力によりピアノ・ソナタ約 140 点のデジタル化とリストのチェックを実施しました。

2020 年度は新型コロナウイルス感染症の影響に対応するためオンライン授業が開始されました。これに伴い、特に新入学生に対して、図書館で契約している DB や配信サービス、OPAC の使い方ガイドといった情報を HP で公開し、また、図書館のリソースの活用に関する積極的な情報発信を行いました。

なお、新型コロナウイルス感染症防止策において図書館が対応した事項は下記の通り

です。

- ・通学・通勤を控えた学生、教員及び学内に入構できない卒業生への書籍及び楽譜の宅配貸出し
- ・複写依頼及びレファレンスサービスへのメールでの受付・対応
- ・返却期限の延長
- ・利用者登録の有効期限の延長
- ・ソーシャルディスタンスを考慮した館内配置
- ・感染防止策の徹底

④図書館実施事業一覧（定例事業）

実施日	名称	内容
8月20日（木）～	Welcome to our CAMPUS	展示
9月17日（火）	新入生ガイダンス「音楽資料の探し方」	ガイダンス
10月2日（金）	フルクサス展示	展示（「聴き伝わるもの、聴き伝えるもの」関連企画）
11月24日（火） ～12月27日（日）	「Music－音と色の採点」	展示（企画：音楽情報専修、音楽学コース、音楽情報・社会コース専門ゼミⅠ・Ⅱ／研究発表会）
11月24日（火） ～12月27日（日）	「雑誌への扉。」 Vol.1 PYPERS	展示（企画：図書館）
11月30日（月） ～	「The 文献リサーチ」	展示（参考図書とその使い方の紹介）
1月8日（金） ～3月31日（水）	「雑誌への扉。」 Vol.2 Band Journal	展示（企画：図書館）

⑤楽器学資料館

2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、年度当初から閉館あるいは利用制限を行っていましたが、7月中旬には展示室の授業や見学利用を再開しました。これまで対面で実施していた「楽器の10分講座」は休止したものの、「楽器の10分講座 mini」とし、Google Classroom を使って楽器解説映像を公開する等、コロナ禍にあっても楽器学資料館としての活動を可能な限り維持しました。

2020年度予定していた公開講座のうち4講座は中止としましたが、下記講座については、5月から10月に延期して実施し、学内限定ではありますが、録画配信も行いました。

・「ワークショップ&コンサート “オルガン de ジャズ 2020”

日 時：2020 年 10 月 14 日（水）19:00

場 所：6 号館 110 教室

参加者：事前に登録した 39 名

出演者：

小曾根真先生 Hammond Organ

池田篤先生 Alto Sax.

高橋信之介先生 Drums

佐藤七海（電子オルガン専攻3年）

小杉泰斗 (ジャズ専修3年)

山岸竜之介 (ゲスト出演) Guitar



また、新型コロナウイルス感染症の影響のため、他の博物館施設で学芸員実習ができなかった本学学生（学芸員課程 4 年生 4 名）について、学習上の観点からも 10 月に本館で受け入れを行い、無事実習を終えました。

《音楽と伝統のイノベーション》

①音楽の伝承

2005 年度から実施している『聴き伝わるもの、聴き伝えるもの—20 世紀音楽から未来へ向けて—』シリーズは、精選された現代作品（聴き伝わるもの）と新作（聴き伝えるもの）によって構成される、過去から未来への音楽の伝承をコンセプトに行っています。

毎年新しい挑戦のもと、様々なスタイルの音楽を取り上げてきておりますが、2020 年度は、「ニューヨーク、現代音楽の極北」と題し、フェルドマン晩年の大作《サミュエル・ベケットのために》日本初演をメインに、世界の先端に行くニューヨークの音楽シーンの中でも極北を示してきた作品群を特集しました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、一般公開は中止せざるを得ませんでしたが、10月3日（土）に学内限定で演奏会を実施しました。



②他大学などとの協働によるイノベーション



2019 年度に始まった、本学と東京大学によるオーケストラを用いたヒューマンアンドロイド「オルタ 3」による演奏表現の共同研究について、2020 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により研究活動が停滞しました。しかし、時機を見て共同研究を再開させることになっています。「オルタ 3」は、事前に楽譜を学習し、その上で実際のオーケストラを

指揮し、その際に生じる現象について、検証、再現、場合によりプログラムの書き換えを含めた様々な処理を行い、自律的な指揮が可能となる方法を研究するものです。実際のオーケストラを指揮することが重要であり、その演奏を本学が担っている意義は大きく、継続して研究を進めていきます。

その他、これまで株式会社コルグと共同でサウンド・ライブラリーを開発してきましたが、本学が全面的に協力を行ったプリペアド・ピアノ、ファウンド・パーカッション、フォルテピアノの音源を搭載した「NAUTILUS」が 2020 年 11 月発売の運びとなりました。

③新型コロナウイルス感染症下における楽器演奏に関する研究

新型コロナウイルス感染症下における楽器演奏に関して、学生、教員がどのように音楽演奏をしてゆけばよいのかわからない中、1 つの指針として楽器演奏時に人が楽器に空気を吹き込みそれが流出する際に、どのような状況になっているのか研究を行いました。本学准教授 三浦氏により、吹鳴楽器及び歌唱時における空気流の計測を行い、その研究結果を HP 上で公開しました。

国立音楽大学、演奏時における空気流出に関する研究結果を発表

国立音楽大学（所在地：東京都立川市、学長：武田 忠善）は、三浦雅展准教授（音楽学）による声楽および管楽器演奏時における空気流出に関する実験結果を発表しました。



調査の一例（サクソフォーンの場合）

《大学改革推進室（定例事業）》

- ・ 6 月 11 日（木）「科研費・論文セミナー」（Zoom 参加あり）
- ・ 10 月 9 日（金）「TAC 教職員交流会」（Zoom 開催）

テーマ「事業継続計画(BCP)について～新型コロナウイルス感染症に対する各大学の取り組み～」

《大学改革推進室（2020 年度特記事項）》

- ・「研究紀要」投稿論文等の本学リポジトリへの掲載について、本文も掲載することとします（これまでは、要旨とキーワードのみの掲載）。
- ・ 2023 年度大学認証評価に向け、2020 年度に自己点検・評価委員が任命され、また、受審機関はこれまでの「大学基準協会」から「日本高等教育評価機構」としました。
- ・ 例年実施している「同調会ホームカミングデイ」は、新型コロナウイルス感染症の影響によりこれまでの実施方法を変更し、くにたち賞受賞式と受賞者によるトーク&コンサートを収録、後日配信とし、懇親ティーパーティーは中止としました。
- ・ これまで「教授会」直下に紐づけていた各科目会について、「演奏・創作学科」、「音楽文化教育学科」の 2 区分とした上で、以下のように専修ごとの運営会としました。

演奏・創作学科	声楽専修運営会
	鍵盤楽器専修運営会
	弦管打楽器専修運営会
	ジャズ専修運営会
	作曲専修運営会
	コンピュータ音楽専修運営会

音楽文化教育学科	音楽教育専修運営会
	音楽療法専修運営会
	音楽情報専修運営会
	幼児音楽教育専攻運営会

外国語教育運営会
教職課程運営会

2) 演奏芸術の振興

2020 年度は、演奏芸術の一層の振興を目的に、活動内容の展開に合わせ「演奏センター」から「演奏芸術センター」と名称を新たにし、企業連携・募金活動や新たな学外演奏活動を積極的に進め、演奏芸術振興のハブ組織として多角的に活動を行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、その活動は限定的なものになりました。

しかし ICT 環境整備の迅速化や動画配信に必要な機器の購入等により、演奏会のオンラ

イン配信を可能な限り進めてきました。音楽大学として、そして何よりも学生にとって、音楽演奏の場を失うことは最も辛いことです。そうした状況を少しでも改善し、音楽芸術の振興を維持するため、最大限の措置を講じました。

演奏会のオンライン配信については、DX時代を見据えればいずれ着手するものであったこともあり、リアル開催での演奏会を基本軸としながらも、引き続きオンライン演奏会コンテンツの充実や動画のクオリティ向上、音質の向上にも取り組んでいく予定です。

演奏芸術センター実施事業一覧（定例事業含む）

※下記のうち5公演は、HP「Harmony of くにたち」で動画配信したものです。

※「中止」「延期」は、新型コロナウイルス感染症の影響によるものです。

※発表会、卒業演奏会、修了演奏会は除いています。

	日程	会場	名称	内容
1	4月3日（金）・4日（土）	講堂大ホール	2020 年度基礎ゼミオーケストラコンサート	「延期」
2	4月28日（火）	オーケストラスタジオ	トマ・ルルー チューバ公開レッスン	「中止」
3	5月8日（金）	ゆとろぎ大ホール	羽村市小学校音楽鑑賞教室（オーケストラ）	「中止」
4	5月9日（土）	ゆとろぎ大ホール	青梅佐藤財団主催国立音楽大学オーケストラ演奏会	「中止」
5	5月12日（火）	講堂大ホール	立川市中学校音楽鑑賞教室（オーケストラ）	「中止」
6	5月14日（木）	ルネこだいら	小平市中学校音楽鑑賞教室（プラスオルケスター）	「中止」
7	5月16日（土）・17日（日）	アクトシティ浜松	ジャパンバンドフェスティバル	「中止」
8	5月22日（金）	ルネこだいら	小平市小学校音楽鑑賞教室（オーケストラ）	「中止」
9	5月31日（日）	講堂大ホール	ファミリーコンサート 2020	「中止」
10	6月上旬	オーケストラスタジオ	シュテファン・シリー オーボエ公開レッスン	「中止」
11	6月7日（日）	講堂大ホール	オーケストラワークショップ	「中止」
12	6月17日（水）	合唱スタジオ	細川俊夫 作曲ワークショップ	9/23 に日程変更
13	6月20日（土）・21日（日）	講堂ほか	吹奏楽ワークショップ	「中止」

14	6月24日(水)	講堂小ホール	第105回ソロ・室内楽定期演奏会	「中止」
15	7月4日(土)	講堂大ホール	第133回オーケストラ定期演奏会公開リハーサル	「中止」
16	7月5日(日)	講堂大ホール	第133回オーケストラ定期演奏会	「中止」
17	7月10日(木)	東京オペラシティ	第61回ブラスオルケスター定期演奏会	9/30に日程変更、講堂に会場変更
18	7月16日(木)	講堂小ホール	莊智世恵 声楽公開レッスン	「中止」
19	7月19日(日)	新1号館ほか	ピアノフェスティバル	「中止」
20	7月25日(土)・26日(日)	東京文化会館／オリンパスホール八王子	小曾根真&アランギルバート Jazz meets Classic with 東京都交響楽団(合唱出演)	出演中止
21	7月30日(木)	オーケストラスタジオ	ミシェル・アリニョン クラリネット公開レッスン	「中止」
22	8月20日(木)	講堂大ホール	夏のコンサート2020	「中止」
23	8月27日(木)	オーケストラスタジオ	イザベル・ムンドリー 作曲公開講座	「中止」
24	8月28日(金)	オーケストラスタジオ	一柳慧 作曲公開講座	事前予約者のみ54名
25	9月4日(金)	講堂小ホール	白井光子 声楽公開レッスン	「中止」
26	9月12日(土)・13日(日)	新1号館	声楽ワークショップ	「中止」
27	9月19日(土)	講堂小ホール	ウィリアム・マッテウツィ 声楽公開レッスン	「中止」
28	9月23日(水)	講堂大ホール	Basic オーケストラ・コンサート	事前予約者のみ97名
29	9月23日(水)	合唱スタジオ	細川俊夫 作曲公開講座	事前予約者のみ17名
30	9月30日(水)	講堂大ホール	第61回ブラスオルケスター定期演奏会	事前予約者のみ102名
31	10月1日(木)	講堂小ホール	パスカル・ドゥヴァイヨン ピアノ公開レッスン	事前予約者のみ56名
32	10月3日(土)	講堂大ホール	聴き伝わるもの、聴き伝えるもの—20世紀音楽から未来に向けて—第15回	事前予約者のみ72名
33	10月4日(日)	ゆとろぎホール	青梅佐藤財団主催 国立音楽大学ブラスオルケスター演奏会	事前予約者のみ235名

34	10 月 17 日 (土)・18 日(日)	講堂大ホール	大学院オペラ 2020 モーツァルト： 歌劇「ティートの慈悲」	事前予約者 のみ 101 / 104 名
35	10 月 20 日 (火)	講堂小ホール	ヤコブ・ロイシュナー ピアノ公開レ ッスン	「中止」
36	10 月 25 日 (日)	講堂大ホール	第 51 回打楽器アンサンブル定期演奏 会	事前予約者 のみ 64 名
37	11 月 14 日 (土)	講堂大ホール	第 19 回声楽専修合唱演奏会	事前予約者 のみ 65 名
38	11 月 21 日 (土)	講堂小ホール	第 39 回作曲作品展	非公開、配信 のみ
39	11 月 25 日 (水)	講堂小ホール	第 106 回ソロ・室内楽定期演奏会	事前予約者 のみ 48 名
40	12 月 3 日 (木)	講堂小ホール	大学院リートアンサンブル演奏会	事前予約者 のみ 41 名
41	12 月 5 日 (土)	ミューザ川崎	第 11 回音楽大学オーケストラ・フェ スティバル (本学&洗足学園音楽大 学)	※チケット 完売
42	12 月 6 日 (日)	講堂大ホール	第 134 回オーケストラ定期演奏会	事前予約者 のみ 108 名
43	12 月 13 日 (日)	講堂大ホール	第 49 回シンフォニックウインドアン サンブル定期演奏会	事前予約者 のみ 78 名
44	2021 年 3 月 27 日 (土)・28 日 (日)	東京芸術劇場 ／ミューザ川 崎	第 10 回音楽大学フェスティバル・オ ーケストラ演奏会	「中止」



▶ [第19回声楽専修合唱演奏会](#)

- ・ 2020年11月14日
- ・ 国立音楽大学 講堂大ホール
- ・ 指揮：キハラ 良尚、工藤 俊幸
- ・ 合唱：演奏・創作学科声楽専修
- ・ ピアノ：清水 新
- ・ オルガン：新田 朝香



▶ [2020年大学院オペラ公演 皇帝ティートの慈悲](#)

- ・ 2020年10月17日 / 18日
- ・ 国立音楽大学大ホール
- ・ 指揮：阪 哲朗
- ・ 演出：中村 敬一
- ・ 管弦楽：国立音楽大学オーケストラ
- ・ 電子オルガン：渡辺 睦樹
- ・ 合唱：国立音楽大学合唱団
- ・ 特別協賛：カンロ株式会社



▶ [Basic オーケストラ・コンサート](#)

- ・ 2020年9月23日
- ・ 国立音楽大学講堂大ホール
- ・ 指揮：青木 高志（本学准教授）
- ・ 管弦楽：国立音楽大学 Basic オーケストラ



▶ [細川俊夫招聘教授 作曲公開講座](#)

- ・ 2020年9月23日 / 30日
- ・ 会場：国立音楽大学新1号館128合唱スタジオ
- ・ 講師：細川俊夫 先生（本学招聘教授）



▶ [一柳慧 作曲公開講座（2020年度国際マスタークラスシリーズ）](#)

- ・ 2020年8月28日
- ・ 国立音楽大学新1号館142オーケストラスタジオ
- ・ 講師：一柳 慧 氏

3) 社会貢献・地域連携

2) 演奏芸術振興と同様に、2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、その活動は限定的なものになりました。先の演奏芸術センター実施事業一覧にあるように、社会貢献・地域連携の一環として例年実施していた小学校音楽鑑賞教室、中学校音楽鑑賞教室やファミリーコンサート、吹奏楽ワークショップなども緊急事態宣言のもと、あるいは聴衆の安心・安全を確保するため、やむを得ず中止としました。

新型コロナウイルス感染症の今後の動向に拠りますが、2021年度も状況を見ながら、できる範囲で当初予定していた活動を推進していく予定です。

4) 「くにおんアカデミー」

「くにおんアカデミー」について、まず第1歩として2020年度に「ジュニア育成プログラム」を開設するためのプロジェクトチームを編成し、対象者、教師、レッスン料、場所、育成方針等具体的に詳細を詰め、2020年度末には募集チラシを作成、告知を行いました。2021年4月には「ジュニア育成コース（ピアノ）」が開講します。

このプログラムのスタートにより、広く一般の生徒だけでなく、本学附属校生徒も含め「くにおん」の一貫したレッスン体系」を構築する基盤ができました。一般の生徒には音楽大学ならではの質の高い音楽教育により、信頼感や親近感を持ち、本学のファンになっていただく、そして附属校生徒には、幼稚園から大学院まで備えた本学の一貫教育の有意性を感じてもらおう、という環境作りを目指しています。

今後は、ピアノ以外の楽器、また社会人対象コースも検討していく予定です。

HPでの告知・案内

PICK UP

 「くにおん高付基金」を立ち上げました これからの音楽教育活動を支えるためのご協力をお願いし、新たな寄付金制度を設けます。	 オンライン・オープンキャンパス 動画を中心に、見て楽しいコンテンツを順次公開。オンライン・オープンキャンパスならではの体験授業レポートも掲載しています！	 国立音楽大学 くにおんアカデミー 2021年4月開講（途中入会可） ジュニア育成コース（ピアノ） ～幼児から高校生まで～ ジュニア育成コース（ピアノ） 幼児から高校生を対象としたピアノ個人レッスンのコースを開講します。	 くにおんびーぐる 「音楽以外何もいらない」と思えるほど音楽に打ち込んだ4年間でした” RINAさん（ジャズピアニスト／作曲家／編曲家）
---	---	---	--

ジュニア育成コース（ピアノ）

ジュニア育成コース（ピアノ）について

2021年度より幼児から高校生を対象に、「くにおんアカデミー ジュニア育成コース（ピアノ）」を開講します。ひとりひとりに合わせたレッスンを本学学生と同様の環境で行います。

レッスンについて

本コースでは、本学教員、もしくは本学卒業生のピアノ個人レッスンを受けられます。対面レッスンを基本としますが、オンラインでレッスンを受講することも可能です※1。また、初回は無料体験レッスンを受講することができます。教員（もしくは卒業生）のレッスン担当曜日等は、4月以降更新予定です。

○開講曜日・時間
月曜日～土曜日（日曜・祝日を除く）18時まで
※固定曜日・時間での受講となります

○クラス
それぞれのレベルに合わせた3クラスを設置しています。

クラス	初級クラス（月3回）	中級クラス（月3回）	受験クラス（月2回）
レッスン時間（回）	30分	45分	60分
レッスン回数（年）	36回	36回	24回
1回あたりのレッスン料	3,500円	5,250円	8,000円

※1 オンラインレッスン受講にかかるPC、スマートフォンなどの機器や通信、ネットワークについては、受講生にて準備し費用負担するものとします。



5) グローバル教育センター

2021年度4月からの開設を目指し、2020年度に準備を進めていたグローバル教育センターについても、新型コロナウイルス感染性の影響により、一旦プロジェクトを中断しました。2020年度は様々な場面でオンラインを活用しましたが、音楽演奏実技の場合、海外大学とのオンライン画面を通しての音楽教育は、高等教育機関レベルの質を保証することが難しいため、時機を見て改めて仕切り直すことにしました。

グローバル教育センター設置にあたっては、基本的には本学から派遣する留学生、海外から本学に学びに来た留学生に関するあらゆることに対応するワンストップ・サービス・センターとして考えていましたが、加えて、留学生に限らず在学学生も含め音楽基礎科目や語学等、学習に遅れが出ている、あるいは問題を抱えている学生に対する学習支援サポートセンター機能も含めていました。2020年度は、この学習支援サポートの部分だけでも機能をスタートさせようと、在学している外国人留学生を対象にチューター制度を導入しました。

6) 管理・運営

《業務プロセス改革》

2020 年度は、認証評価制度や大学教育の質保証等、国から大学に課される要請に対応しなければならない業務が年々増していることに加え、2019 年度に施行された「長時間労働の是正・多様で柔軟な働き方の実現等に関する法律」に対応するため、主に総務・財務課の業務効率化を推進しました。

①財務部門

2020 年度に「Web 財務」システムを導入し、各部署で自席の PC から予算申請、支払申請ができるようにし、予実管理も行えるようになりました。これまで紙で行われていた一連の作業が PC 上でできるため、ペーパーレス化、業務効率化が図られました。

また支払作業、予実管理を担当する経理課では、このシステムの導入により、これまで各部署から紙で提出されていたデータの入力作業が無くなり、また、全てがデータ化されることで、精度の高い予実管理やデータを活用した分析等が行えるようになります。

導入にあたっては、職員に対し「Web 財務」マニュアルを配布し、説明会を実施しました。10 月に導入、当初は予算申請部分のみでテスト運用し、2021 年度から本格稼働に入ります。

②総務部門

2020 年度は、2021 年度 4 月からの運用を目指し、これまで紙で行っていた回議書（稟議書）の作業の効率化を図るため、電子稟議システム導入の準備を行いました。これにより、ペーパーレス化、業務効率の向上だけでなく、各回議書の承認者が自席の PC 上で決済をすることで、承認ルートを明確化、どの段階まで回議書が進んでいるかも把握できるようになります。

システム導入準備は予定通り行い、2021 年度 4 月から運用予定です。

また、勤怠管理システムについても同様に 2021 年度 4 月からの運用を目指し、準備を進めました。クラウドサービスを利用したシステムに統一し、管理の一元化を図ります。

これまで紙で行われてきた休暇申請や時間外申請等も電子申請となり、申請者の手続きの簡易化、ペーパーレス化を推進します。

学内 LAN スタートページにリンク
(2021 年 4 月現在)



③総務・財務部 2020 年度特記事項

- ・就業規則が改定され、非常勤教職員の忌引休暇申請が可能となりました。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響のため、例年実施している「救命救急講習会（AED講習）」、「起震車体験、消防訓練」、「防災避難訓練」は中止としました。ただし、「防災避難訓練」に関しては、消防署からの指導により対象者全員に避難経路図を配布しました。
- ・新型コロナウイルス感染症の初期症状がインフルエンザウイルス感染症の初期症状と共通点が多いことから、インフルエンザワクチン接種を勧奨し、学内各所にポスターを掲示し、啓蒙活動を行いました。
- ・新型コロナウイルス感染症に関連し、東京都に緊急事態宣言が発出された期間について、職員の在宅ワークや公共交通機関利用の時差通勤の実施等を行いました。
- ・「組織規程」を改定し、事務局職員管理職（課長補佐）の役職定年後の職名を「副参事補」と職名変更しました。

《制度改革》

「自己申告制度」について、課題解決型 PDCA への転換及び効果的・効率的な運用を目的に、2020 年度から設問内容を見直し、「今後経験したい職務」について問う欄を追加し、また、「異動を希望する理由」から「異動先で何を実現したいか」に変更しました。「目標管理制度」については、2021 年度からは「課題改善制度」として刷新します。

人事制度改革については、予定通り 2020 年度に「人事制度委員会」を設置し、人事の公平性と透明性を確保する基盤ができました。

《人財の確保と育成》

2020 年度の新たな採用については中長期的な視点に立ち、積極的に若手を採用、また、専門性の高い業務に関する人財確保を採用計画に組みました。キャリアプラン制度は、制度としての構築はまだ道半ばですが、2021 年度から筑波大学大学研究センターが行っている「大学マネジメント人材養成履修プログラム」への職員の定期的派遣を決定したことを第 1 歩として、更に推進していきます。

制度として確立することや、職員のモチベーションに寄与する計画的な研修等、今後も継続課題として検討します。

7) 施設環境整備

2020 年度に予定していたいくつかの設備改修工事は、新型コロナウイルス感染症の影響により、延期となりました。延期後の具体的な日程は未定です。

食堂について、「くにおんごはんステートメント」のもとメニューの改善を実施し、また、電子マネーに対応した食券販売機を設置、加えて学生が自由に使用できる充電用コンセントを取り付けました。今後、学生のアンケートをとり、更なる改善に繋げていく予定です。

学生寮に関しては、寮生からクレームのあった、大学銀杏寮の機器の老朽化による通信障害を改善するため、新たな Wi-Fi 環境を整備しました。

8) ICT 環境整備

2020 年度、予期していなかった新型コロナウイルス感染症の拡大により、ICT 環境は予定外の事業も含め、スピードを上げて進めることができました。以下、時系列で実施した事業を示します。

- ・ 5 月 大学の委員会を管轄する各部署に Zoom 購入 (Zoom 操作マニュアル作成)
- ・ 6 月 学内におけるオンライン授業受講のため、Wi-Fi ルータを増設
Zoom 会議用ヘッドセット、web カメラ、スピーカーマイク購入
- ・ 7 月 講堂に Wi-Fi ルータ増設
- ・ 8 月 SINET 拡張及びクラウドゲートウェイホスティング関連作業開始
→その後、10 月に延期
- ・ 9 月 「学内 LAN 運用規程」、「学内 LAN 利用規程」改定
 - I. 附属教職員について学内 LAN の ID を付与
 - II. 学内 3 系統のうち残っていた図書館にも SINET を導入し、大学全体の通信環境を統一したことから、「学内 LAN に統合されないシステム」から図書館を削除
 - III. 「学内 LAN 実務委員会」を「ICT 推進委員会」に名称変更
 - IV. III の委員会の名称変更に合わせて、「情報セキュリティ規程」、「情報セキュリティ委員会規程」を修正
- ・ 10 月 ストリーミング授業対応のため、Google Meet 有料版を教職員の 15%分購入
- ・ 2021 年 1 月
本部棟第 1 会議室、第 3 会議室、7 号館 201 室に Web 会議用キットを設置
職員在宅勤務業務用 PC の貸出、マジックコネクトの貸出開始 (試験段階)
学内無線化追加工事

また、文部科学省が令和 2 年度 (2020 年度) の第 3 次追加補正予算として 2021 年 1 月に公募発表をした「大学改革推進など補助金 デジタル活用教育高度化事業」について、申請書類作成期間が約 2 週間という短い期間でしたが、「音楽大学における個人レッスンのデジタル化」をテーマとし、申請を行いました。国が急速に進める DX 施策の流れによるもので、本学の人的現状ではハードルが高いものであり、採択の可能性は低いことを認識していましたが、将来的な展望を見据えて挑戦しました。不採択とはなったものの、文部科学省からの採択通知に書き添えられているように、「これを補助金申請のための一過性の取組とせず、これまでの教育環境を見直す機会と捉え、計画を具体化し、可能なものから実行してく」よう検討を進める予定です。

なお、2020 年度には ICT 関連科目について協議を重ねました。ある程度、具体的な内容もフィクスしつつあり（演奏録音・録画・発信等 ICT リテラシー教育）、2021 年度に特別講座や学外講座のような形でまずは試験的に実施する準備をしています。

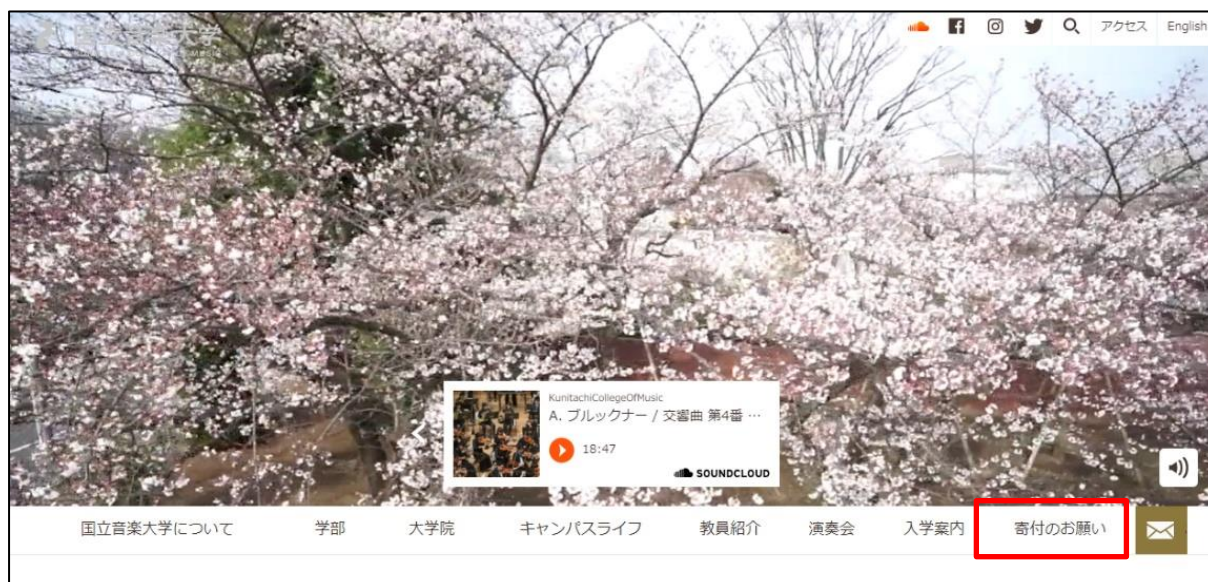
9) 新たな財源の確保

2020 年度は、新たな財源確保のため HP からリンクして立ち上がる「くにおん寄付基金」サイトの制作を進めてきました。2021 年 3 月にローンチ後、すぐに HP に掲載を始めました。「くにおん寄付金」サイトの制作にあたっては、本学の教育理念が見えるようなカテゴリーに分け、目的別あるいはプロジェクト別に寄付ができるようなレイアウトにしました。ビジュアルも大切なイメージ戦略となりますので、なるべく多くの魅力的な写真を使用し、視覚的にもアピールするよう工夫を凝らしました。

また本学 HP からのリンクについては、広報センターの協力を得て、トップページのインデックスの 1 つとして加え、寄付者がすぐにアクセスできるような作りをしています。

今後はこのサイトを有効活用し、新たな財源の確保に繋げる工夫を検討すると同時に、2020 年度に具体的検討・準備を予定していたクラウドファンディングについて 2021 年度も継続して検討することとしています。

本学 HP トップページにタイトル追加
見やすさ、アクセスのしやすさを考慮



[本学 HP トップページ](#)

[PICK UP にも表示](#)

PICK UP



進学ガイダンス&体験レッスン 2021

全国15カ所で開催！
教職員がお近くまで参ります。お申し込みはごちらから。



春のオープンキャンパス

5月23日（日）開催！体験レッスン、楽典・ソルフェージュの勉強法、入試システムの紹介、在学生との交流など、くにたちを満喫する1日。事前申込受付中です！



「くにのおん寄付基金」を立ち上げました

これからの音楽教育活動を支えるためのご協力をお願いしたく、新たな寄付金制度を設けます。



オンライン・オープンキャンパス

動画を中心に、見て楽しいコンテンツを順次公開。オンライン・オープンキャンパスならではの体験授業レポートも掲載しています！

[「くにのおん寄付基金」サイトトップページ](#)

国立音楽大学
くにのおん寄付基金

寄付をする

[トップページ](#) |
 [ご寄付のお願い](#) |
 [基金の種類](#) |
 [寄付のお手続き](#) |
 [税制上の優遇措置](#) |
 [活動報告](#) |
 [お問い合わせ](#)

音楽文化人育成と音楽芸術振興を通じた社会への貢献に向けて皆様のご支援をお願いします

くにのおん寄付基金の種類

寄付のお手続き

税制上の優遇措置

寄付者が寄付したい対象を選択できる

くにおん寄付基金

 くにおん総合基金 詳細を見る 寄付をする	 大学・大学院支援基金 詳細を見る 寄付をする	 演奏芸術活動支援基金 詳細を見る 寄付をする	 グローバル教育振興基金 詳細を見る 寄付をする	 奨学金基金 詳細を見る 寄付をする
 施設・教育環境整備基金 詳細を見る 寄付をする	 図書館支援基金 詳細を見る 寄付をする	 楽器学資料館支援基金 詳細を見る 寄付をする	 教員の教育研究活動支援基金 詳細を見る 寄付をする	 遺贈による寄付 詳細を見る 寄付をする
 附属中学校・高等学校支援基金 詳細を見る 寄付をする	 附属中高新2号館建設プロジェクト 詳細を見る 寄付をする	 附属小学校支援基金 詳細を見る 寄付をする	 附属幼稚園支援基金 詳細を見る 寄付をする	

10) 広報活動

《What～ブランディング広報》

「くにおん value」の明確化とその発信

2020年度は、トップページに新型コロナウイルス感染症に関するニュースの掲載が続き、当初予定していた“くにおん value”の発信がなかなかありませんでした。2020年度は、コロナ禍にある学生にとって必要な情報を時々刻々と迅速に発信していくことが、広報としての使命でもありました。

このような中でも、募集活動の強化としてオープンキャンパスを始めとしたいくつかの事業についてオンラインを活用して、本学の授業やレッスンの様子を動画配信したことは、“くにおん value”発信の1つといえます。オンラインを活用するため、演奏活動動画を以前よりも充実させ、また、SNSの多様化も図りました。

更に、2020年度に予定していた本学公式HPの見直しと実施については、新型コロナウイルス感染症の影響により推進ができませんでした。この推進のため2019年度に1名増員を図りましたので、2021年度には実行予定です。同じく2020年度に予定していた、学内におけるデジタルサイネージ設置も2021年度に延期することにしました。

《How～広報手段の充実》

「入学者等各種調査に基づき、有効な広報チャンネルの多角化・拡充・深化を図る」

2020年度は、かなり積極的なオンラインを活用した広報としました。上記ブランディング構築に関しては、デジタルコンテンツと配信（Harmony of くにたち）の充実、下記募集活動に関してはオンライン・オープンキャンパス、オンライン・レスナーミーティング等、年度を通じて少しずつその手法も発展させることができました。

夏期受験準備講習会では、412名の参加者のうち約38%がオンライン参加、冬期受験準備講習会でも、403名の参加者のうち約22%がオンライン参加で、オンラインを併用することによって、例年並の参加者数を維持することができました。

その他、ネット広告へのシフティングを計画していたことから、2019年度に試験的に出稿したリターゲティング広告に一定の成果が見られたため、2020年度には本格的に運用を開始しました。

高校訪問については、2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、ほとんどが中止せざるを得ませんでした。高校訪問に代わる学長の電話による挨拶やオンライン説明会の実施等で補う措置を行いました。また高校訪問の在り方について、2019年度に検討し、これまで模擬授業等、高校側からの依頼があつて実施するという受動的な体制でしたが、2020年度からは、本学側が高校へ模擬授業リストを積極的に配布するという能動的な体制（教員との連帯活動）に変えることにしていました。この活動も新型コロナウイルス感染症の影響により2校の実施に留まりました。こうした活動について、新型コロナウイルスの状況と高校側の対応を見ながら、できるだけ推進していきます。

《募集活動の強化》

新型コロナウイルス感染症下において、5月の事業からはオンラインを活用したオープンキャンパスやレスナーミーティング、受験準備講習会等を実施しました。オープンキャンパスで発信したレッスン動画は特に好評で、その場で見学しているようなアングルで細かな指導まで確認できることや、入学後のレッスンの様子がシミュレーションしやすいといった点などから、オンラインならではの良さも発見できました。

またオープンキャンパスは、本学に来ていただき実際に様々な体験や雰囲気を感じてもらうことが目的ですが、オンラインを利用することで遠隔地の生徒や保護者も参加できるといった利点もあります。音楽大学の場合はリアルが本道ですが、コロナの終息が見えないことや災害非常時はもちろんのこと、国としてデジタル教育が推進され、小学生からそのような環境で育つこれからの学生を考え合わせると、今後もオンラインを利活用していくことが募集活動の新たな視点と考えています。

HP で公開しているレッスン動画



クラリネット

C. Debussy: Première Rhapsodie



サクソフォーン

W. Ferling: Quarante-Huit Études pour tous les Saxophones より第1番



広報センター実施事業一覧（定例事業含む）

※「中止」「延期」は、新型コロナウイルス感染症の影響によるものです。

	日程	名称	内容
1		春のオープンキャンパス	「中止」
2		進学ガイダンス（全 14 会場）	「中止」
3		高校訪問	一部オンライン実施
4	7 月 4 日（土）	バスツアー（水戸／土浦、宇都宮／小山、前橋／高崎）	「中止」
5	4 月～6 月	音楽指導者向け説明会（レスナーミーティング） 福岡、岡山、名古屋	オンライン実施
6	5 月 17 日（金）	第 50 回 「日本吹奏楽指導者クリニック（浜松）」	「中止」

	～19 日（日）		
7	5 月 24 日（日） 【形態変更】	Web オープンキャンパス（3 回に分けて配信） 5/24（日）学科説明、キャンパスツアー動画等 6/7（日）入試説明、体験授業、授業見学等 6/21（日）各種動画（勉強法、施設、授業）、オンラインレッスン、体験授業、電話個別相談	オンライン
8	6 月 9 日（日）	朝日 音楽大学・音楽学部 体験フェア 2020	「中止」
9	6 月～7 月	指定校訪問	訪問と学長による 電話での挨拶
10	8 月 20 日（木） ～23 日（日）	夏期受験準備講習会	オンライン併用実施
11	10 月 11 日（日）	秋のオープンキャンパス	オンライン併用実施
12	12 月 24 日（木） ～27 日（日）	冬期受験準備講習会	オンライン併用実施

11) 学校間連携

大学と附属校との連携強化は 2020 年度を通じ、多くの話し合いや意見交換を行い、様々な面で推進を行いました。これらの事業報告については、次項の各附属校の説明で行います。ただし、大学と同様に新型コロナウイルス感染症により年度当初に予定していた事業の一部実施、あるいは形態を変えての実施となりました。

附属中学校・高等学校

《学校間連携》

2020 年度は、併設する音楽教室「ミュージック・アトリエ」の開設 4 周年でした。開設以来、4 歳以上から中学 3 年生及び将来国立音楽大学へ進学を希望する在校生を対象とした個人レッスンをアフタースクールと位置付けて実施してきました。最近、普通科の生徒も増加しており、今後も国立音楽大学の音楽一貫教育の推進場所として活性化を図っていきます。また、大学が 2020 年度に準備を進め 2021 年度春に開始した「くにおんアカデミー」「ジュニア育成プログラム」についても連携を深めていくことを決定しました。

2020 年度は新型コロナウイルスの影響により、附属幼稚園の園児と保護者は遠出ができない状況にありました。それを受け、年長園児と保護者を附属高校に遠足として招待し、校庭を開放、校長によるアンパンマンコンサートも実施しました。その際には、本学高校生が園児の世話をするなど交流を行い、附属校としての繋がりを体感できるよう工夫しました。

《オンライン授業の導入》

新型コロナウイルス感染症の影響により、5月から少しずつオンライン授業、zoomによるレッスンを実施し、教育活動の継続と維持を図りました。

《定例事業について》

2020年度の演奏会は、新型コロナウイルス感染症の影響により、前期は中止としましたが、後期には大学の講堂大ホールで入場者を生徒のみに制限して、くにたち音楽会を実施しました。また、3月には府中の森ドリームホームで、保護者も入場可能な形で卒業演奏会を開催することもできました。

附属小学校

《学校間連携》

新型コロナウイルス感染症の影響により具体的な事業の実施には至りませんでしたが、2020年度を通じて、大学学長や理事長、大学教員等と話し合いや意見交換をし、年度末には「附属校園長会」が実施され、その中で附属校連携強化に向けた活発な議論ができたことで、次年度に繋げていきます。

《新型コロナウイルス感染症下の2020年度事業計画の推進と学習環境の維持》

①校内研究

音楽教育を他教科と協同させることで児童の主体性や対話能力を刺激し、深い学びに発展するような授業、活動を実践する「豊かな感性を育む」校内研究を実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症への対応を優先し、この事業は次年度の実施としました。

2020年度を通じて、校内研究に限らず、オンラインを活用し可能な限り学習環境の維持に努めたことで、オンライン学習が根付いたこともあり、生徒1人1台のタブレット導入について検討し、3学期から、まず5年生を対象に先行導入しました。

②宿泊行事

例年実施している宿泊行事についても中止としました。しかし、6年生については代替行事として、10月16日（金）に生徒自らが企画した「音小の夕べ」を実施しました。

③心の教育

自分だけでなく相手のことも思いやることのできる子どもに育成することを目指して続けてきた心の教育に関する活動について、2020年度は新たに「ひびきの時間（主に道徳）」を時間割に組み込み、教員が道徳をひとつの教科として意識するとともに、毎週月曜日に行っている朝礼の校長講話の中でその都度取り上げるようにしました。

④規律ある生活

教員における集団生活上のきまりや、登下校時の児童の安全と公共交通機関のマナーへの徹底指導について、2020年度は更なる強化を図ってきましたが、未だ十分とは言えず継続が必要と判断しました。

⑤広報活動

HP、スクールガイドを有効活用し、「豊かな感性を土台とした人間形成」の周知を推進できました。また幼児教室への訪問は、校長、副校長、担当教員の中で2人体制を組み、数多く訪問し説明を行うことができました。

⑥入学者確保に向けた取り組み・各種説明会・金管アンサンブルの実施

新型コロナウイルス感染症の影響により、実際に学校に来ていただく機会を作ることができず実施ができませんでした。次年度継続事項となりますが、その際に、積極的な動画配信の検討や教職員の理解を進めていきます。

附属幼稚園

《学校間連携》

新型コロナウイルス感染症の影響により具体的な事業の実施には至りませんでしたが、2020年度を通じて、大学学長や理事長、大学教員等と話し合いや意見交換をし、その中で附属校連携強化に向けた活発な議論ができたことで、次年度に繋げていきます。

入園説明会については、子ども同士の交流は避け、保護者向けに入園相談を実施しました。また、附属小学校進学希望者で進学にあたってフォローが必要な園児を対象に、小学校から校長、スクールカウンセラーが来園し観察を行うなど、スムーズな進学ができるよう協力体制を組みました。

更に今後は、学校間連携に関連した事業をコロナ禍のような状況下でも実施できるよう、オンラインの一層の活用について検討する予定です。

《新型コロナウイルス感染症下の2020年度事業計画の推進と学習環境の維持》

①70周年記念行事

新型コロナウイルス感染症の影響により、実施ができませんでした。次年度継続事項となります。

②プレ幼稚園の拡大

コロナ禍の中、子どもの行き場を失った保護者が、安全な遊び場所としてプレ幼稚園を利用したいという要望が増え、毎回30名以上の応募となりました。そのため、2020年度はプレ幼稚園の開催を1回から2回とし、月4回に増やしました。プレ幼稚園利用者の約8割強が実際に入園することから、様々な要望にできるだけ応えていくことが入園者増にも

繋がります。

③研修体制の強化

2020 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、オンライン研修会への参加と大学講師を迎えての園内研究会の実施に留まりました。

2. 施設の整備

2020 年度に実施した施設の整備は下記の通りです。

《大学》

- ・ 6 号館空調設備改修工事
- ・ SPC 棟屋上防水工事
- ・ 7 号館に充電用コンセント・電子マネー対応食券機・食券残数管理システム設置・導入

《中高》

- ・ 3 号館空調機器更新工事

《新型コロナウイルス感染症の影響により延期された事業》

- ・ 大学銀杏寮受変電設備改修工事
- ・ 大学 6 号館トイレ改修工事
- ・ 中高 1 号館トイレ改善工事
- ・ 幼稚園受変電設備改修工事

Ⅲ 決算及び財務の概要

1 決算の概要

(1) 貸借対照表関係

①貸借対照表の状況と経年比較

(単位：百万円)

	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
固定資産	38,618	38,761	39,593	39,103	39,182
流動資産	3,974	3,055	1,883	1,698	773
資産の部合計	42,592	41,816	41,476	40,800	39,955
固定負債	877	833	899	861	822
流動負債	1,091	1,025	970	1,041	1,024
負債の部合計	1,967	1,858	1,869	1,902	1,846
基本金	45,597	45,854	46,617	46,992	47,389
繰越収支差額	△4,972	△5,896	△7,010	△8,095	△9,280
純資産の部合計	40,625	39,958	39,607	38,898	38,109
負債及び純資産の部合計	42,592	41,816	41,476	40,800	39,955

②財務比率の経年比較

比率項目	算出基準	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
運用資産余裕 比率	(運用資産－外部負債) ／経常支出	375%	351%	368%	363%	347%
流動比率	流動資産／流動負債	364%	298%	194%	163%	75%
総負債比率	総負債／総資産	5%	4%	5%	5%	5%
前受金保有率	現金預金／前受金	451%	373%	235%	200%	98%
基本金比率	基本金／基本金要組入額	100%	100%	100%	100%	100%
積立率	運用資産÷要積立額(減価 償却累計額＋退職給与引 当金＋2号基本金＋3号 基本金)	83%	82%	75%	73%	69%
負債比率	総負債／純資産	5%	5%	5%	5%	5%

(2) 資金収支計算書関係

①資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：百万円)

収入の部	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
学生生徒等納付金収入	4,020	3,882	3,710	3,586	3,594
手数料収入	31	28	27	29	29
寄付金収入	43	50	36	22	5
補助金収入	881	899	836	647	703
資産売却収入	2,307	501	303	1,803	401
付随事業・収益事業収入	59	54	70	82	64
受取利息・配当金収入	79	93	98	103	110
雑収入	165	192	98	153	89
借入金等収入	0	1	0	0	0
前受金収入	803	716	673	766	689
その他の収入	388	444	831	456	1,048
資金収入調整勘定	△1,058	△1,152	△978	△805	△829
前年度繰越支払資金	5,051	3,625	2,672	1,577	1,526
収入の部合計	12,769	9,334	8,377	8,418	7,429

支出の部	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
人件費支出	3,482	3,361	3,043	3,154	2,944
教育研究経費支出	929	839	845	879	1,101
管理経費支出	293	663	370	330	335
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	1	1	2	0
施設関係支出	1,320	651	1,625	335	665
設備関係支出	203	75	170	69	106
資産運用支出	2,810	1,001	695	2,001	1,517
その他の支出	271	240	262	248	242
資金支出調整勘定	△163	△168	△212	△127	△153
翌年度繰越支払資金	3,625	2,672	1,577	1,526	672
支出の部合計	12,769	9,334	8,377	8,418	7,429

②活動区分資金収支計算書の状況の経年比較

(単位：百万円)

科 目		2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
教育活動による資金収支						
	教育活動資金収入計	5,013	4,893	4,573	4,504	4,467
	教育活動資金支出計	4,704	4,864	4,258	4,356	4,380
	差引	309	29	314	148	87
	調整勘定	134	△109	120	23	△14
	教育活動資金収支差額	443	△80	434	172	73
施設整備等活動による資金収支						
	施設整備等資金収入計	193	212	598	103	805
	施設整備等資金支出計	1,522	725	1,795	404	771
	差引	△1,329	△514	△1,197	△301	34
	調整勘定等	△157	△3	△10	173	3
	施設整備等活動資金収支差額	△1,486	△516	△1,207	△129	37
	小計（教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額）	△1,043	△596	△773	43	110
その他の活動による資金収支						
	その他の活動資金収入計	2,531	738	491	2,011	642
	その他の活動資金支出計	2,913	1,096	795	2,099	1,606
	差引	△382	△358	△304	△88	△964
	調整勘定等	△1	1	△17	△6	0
	その他の活動資金収支差額	△383	△357	△321	△94	△964
支払資金の増減額（小計＋その他の活動資金収支差額）		△1,426	△953	△1,095	△51	△854
前年度繰越支払資金		5,051	3,625	2,672	1,577	1,526
翌年度繰越支払資金		3,625	2,672	1,577	1,526	672

③財務比率の経年比較

・教育活動資金収支差額比率

	算出基準	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
教育活動資金 収支差額比率	教育活動資金収支差額／ 教育活動資金収入	9%	Δ2%	10%	4%	2%

(3) 事業活動収支計算書関係

①事業活動収支計算書の状況と経年比較

(単位：百万円)

		2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
教育 活 動 収 支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	4,020	3,882	3,710	3,586	3,594
	手数料	31	28	27	29	29
	寄付金	25	24	25	24	7
	経常等補助金	714	714	654	647	700
	付随事業収入	34	29	36	44	26
	雑収入	165	192	101	153	117
	教育活動収入	4,989	4,870	4,554	4,482	4,473
	事業活動支出の部					
	人件費	3,417	3,317	3,049	3,119	2,964
	教育研究経費	1,776	1,748	1,719	1,739	1,964
	管理経費	347	720	444	447	461
	徴収不能額等	2	2	0	0	1
	教育活動支出計	5,542	5,788	5,212	5,306	5,390
	教育活動収支差額	Δ553	Δ918	Δ658	Δ824	Δ917
教 育 活 動 外 収 支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	79	93	98	103	110
	その他の教育活動外収入	0	2	10	14	14
	教育活動外収入	79	95	108	117	124
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	0	0	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出	0	0	0	0	0

	教育活動外収支差額	79	95	108	117	124
経常収支差額		△474	△823	△551	△707	△793
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	7	1	3	3	1
	その他の特別収入	188	217	206	5	6
	特別収入計	195	218	208	8	7
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	10	62	9	2	3
	その他の特別支出	0	0	0	8	0
	特別支出計	10	62	9	10	3
	特別収支差額	184	156	199	△2	4
		2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
基本金組入前当年度収支差額		△289	△667	△351	△709	△789
基本金組入額合計		△1,413	△258	△763	△375	△396
当年度収支差額		△1,702	△924	△1,114	△1,085	△1,185
前年度繰越収支差額		△3,744	△4,972	△5,896	△7,010	△8,095
基本金取崩額		474	0	0	0	0
翌年度繰越収支差額		△4,972	△5,896	△7,010	△8,095	△9,280

(参考)

事業活動収入計	5,263	5,183	4,870	4,606	4,605
事業活動支出計	5,552	5,850	5,221	5,316	5,394

②財務比率の経年比較

比率項目	算出基準	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
人件費比率	人件費／経常収入	67%	67%	65%	68%	64%
教育研究経費比率	教育研究経費／経常収入	35%	35%	37%	38%	43%
管理経費比率	管理経費／経常収入	7%	15%	10%	10%	10%
事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額／事業活動収入	△6%	△13%	△7%	△15%	△17%
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金／経常収入	79%	78%	80%	78%	78%
経常収支差額比率	経常収支差額／経常収入	△9%	△17%	△12%	△15%	△17%

2 その他

(1) 有価証券の状況

(単位：百万円)

種類	当年度 (2021 年 3 月 31 日)		
	貸借対照表計上額	時価	差額
債券	11,151	10,834	△317
株式	—	—	—
投資信託	—	—	—
貸付信託	—	—	—
合 計	11,151	10,834	△317
時価のない有価証券	1		
有価証券合計	11,152		

(2) 借入金の状況

借入金なし

(3) 学校債の状況

学校債なし

(4) 寄付金の状況

2020 年度の寄付金額は 5,063 千円であり、前年度と比較すると 17,165 千円少なくなっています。大学・中高・小学校の新入生から募集していた教育研究協力金について、2020 年度はコロナウイルスの影響で中止したため減額要因となりました。本学では奨学金に対する募金活動を継続的に行っており、『国立音楽大学奨学金』や『大学院奨学金』等に活用しました。2020 年度は 155 万円の寄付金収入でした。

(5) 補助金の状況

本学の主な補助金収入は私立大学等経常費補助金、私立学校経常費補助金、施設整備補助金ですが、私立大学等経常費補助金は、大学が 2020 年度より開始した修学支援新制度による授業料等減免費交付金 4,961 万円により増額となりました。私立学校経常費補助金は前年度と比較して大学は 2,313 万円減少しましたが、附属各校は合計 634 万円増加しました。施設整備補助金は、附属中高が 168 万円、小学校が 169 万円の交付でした。

(6) 収益事業の状況

収益事業の営業利益が 2020 年度に年額約 3,000 万円発生したため、これに伴い学校法人へ 1,400 万円の寄付を実施しました。

(7) 関連当事者との取引の状況

関連当事者との取引なし

(8) 学校法人間財務取引

学校法人間の財務取引なし

3 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

2020年度は大学の入学金増額により学生生徒等納付金収入が増加しましたが、教育・研究水準の向上や学生数の増加に繋がる施策のための投資は続ける方針があり、事業活動支出は増加しました。

基本金組入前当年度収支差額は昨年に引き続き支出超過となりました。支出超過の要因は、収支改善の施策により納付金収入は前年度比で増額しましたが、新型コロナウイルスの影響で、寄付金収入と付随事業収入が減少したこと、退職者数の減少により退職交付金が減少したことにより、収入合計は減少しました。新型コロナウイルス対策のための学生支援等により教育研究経費が大幅に増額したことが支出超過の要因となりました。

活動区分資金収支における教育活動資金の収支差額は 7,290 万円の収入超過でした。財務基盤改善のため、資産運用により運用益を増やして収入安定化の一助としました。2020年度決算で受取利息配当金収入が1億980万円となり、前年度より増額しました。

中期計画では支出超過となっている収支差額を収支均衡させることを目標として収支改善施策を進めています。今後も継続して本学の目指すべきビジョンに基づき、教育プログラム改革、教育環境整備、学生支援充実等を軸に、入試制度改革、募集活動強化、ジュニア育成コース開講等により、これまで以上に魅力ある学園となるよう改革施策を推進することで、大学及び附属校への進学者数増を確保して、中長期的に財政安定化を実現する計画です。